

まほろば



2019.2
第210号

NHOのネットワークで私達は大きく成長します ～病院間派遣職員の故郷帰り～



北海道東北グループの看護職員派遣システムに則り、今年度は2名の看護師が4月から八雲病院で勤務しています。2人は今年度の4月に新卒新人として当院で採用しましたが、八雲病院で弘前病院では経験できない領域の看護を1年間経験したいと派遣協力を志願してくれました。

派遣で勤務している職員は、年2回、派遣元である当院に研修（故郷帰り）のために帰院し、同期の看護師と一緒に研修に参加しています。

今回は、新人研修として「私が考えた倫理的看護場面」というテーマで入職してから今までの看護実践を振り返ることを目的にした発表会を行いました。

派遣で勤務している2人には、筋ジストロフィー病棟で、日々、患者さんとのかかわりの中で大切にしていることを紹介してもらいました。

「病気が進行することにより様々な生活上のリスクは出てくるが、患者さんの希望を無視して看護師の考えを押しつけず、患者さんと生活のありようを一緒に考えることを大切にしたい」「患者さんと看護師の信頼関係を築き、症状を観察（読みとる）することは患者さんのQOL向上につながることを実感している」など生き生きと発表してくれました。

当院の新人達からは、患者さんが治療を安全に受けられるように、本来は患者さんの身体拘束はいけないうことと心を痛めながら抑制帯を手にして自分を振り返る新人、患者さんにわかり易い説明を行っていただければ、患者さんはもっと不安が少なく治療の受け入れの決意ができたのではないかと等々発表されました。発表後には看護師長からのメッセージを受け取り安心の表情をみせてくれました。

当院には、今までに派遣勤務を経験した職員は十数名おります。それぞれ派遣先での経験を礎に、素晴らしい看護を実践しています。国立病院機構のネットワークは、私達をたくましく、そして、しなやかな成長へと導いてくれていると感じています。

(写真：前列中央の2名が今年度の派遣勤務をしている職員)

看護部長：高橋 香

2年目看護師成長記 -レベルII ケーススタディ発表-

平成31年1月16日、キャリアラダーレベルIIケーススタディ発表会が行われました。就職後2年となる看護師は、多くの患者さんを同時に看護するなかで、患者さんのとらえ方や自分の関わり方を振り返り、看護師として今後の課題についてまとめ発表しました。今回は、発表を終えた5階病棟の根井麻依加さん、7階病棟の水木杏奈さんの様子をご紹介します。

2年目になり一人でできる看護技術が多くなり、日々の患者様との関わりから患者様の思いを中心とした関わりができるようになったと感じます。以前よりも援助や、会話の中から患者様の思いを予測し、個別性を意識することを心掛けるようになりました。今後も少しでも患者様に寄り添えるような援助を目指していきたいです。

5階病棟 根井麻依加



発表会は緊張しました。。。



整形外科病棟で働く根井さん
患者様からの「ありがとう」に癒される毎日です



呼吸器・循環器内科病棟で働く水木さん
7階病棟の先輩たちのように
カッコいい看護師に
なりたいです！

今回は、癌を告知された患者さんのケーススタディを行いました。患者さんが疾患を受け入れるまで心理変化に対する援助を振り返ることで、疾患の受容の程度、性格や背景に合わせた個別性のある関わりが重要であることを再確認しました。これからもより患者さん一人一人の気持ちに寄り添い、不安を緩和できるような看護をしていきたいです。

7階病棟 水木杏奈

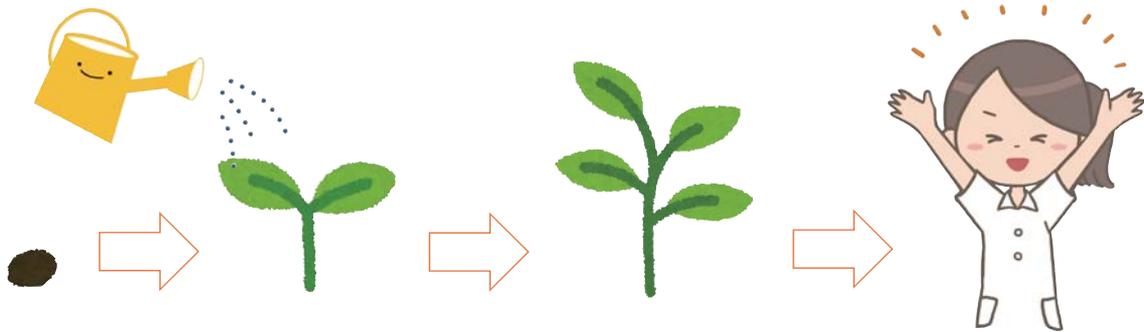


発表会
自信をもって発表できました

看護の楽しさが芽生えた1年目から、2年目を迎えさらに成長を感じられる発表会でした。それぞれの表情は凛々しさを感じ、頼もしく思いました。「寄り添うこと」「患者の意思の尊重」「連携」など、今回の学びからのキーワードを大切に、積み重ねてほしいと思います。3年目は、後輩育成の役割も期待されます。

輝き、尊敬される先輩看護師目指して、ファイトー！

母子医療センター 看護師長：長尾 愛佳



～久渡寺登山～



皆さんご存じ、久渡寺山（662m）。弘前市街地から近く手軽に登れる山として春から秋にかけては登山される方も多いのではないだろうか。1月某日、冬の久渡寺登山をした。前日までの雪の影響もあり、登り始めは脛までのラッセルだったがいつの間にか腿上までの雪の中を泳ぎながら、久渡寺のやや北にある岩落山（573m）へ。そこからは尾根上を進む。時には標高500mとは思えないような風に吹

かれながら山頂へ到着。天気がよければ弘前を一望できるが軽く吹雪いていたため眺望ゼロ…。そして登山と言えば「ヤマメシ」。早速持参のコンロと鍋でもつ鍋を作りお腹一杯いただく。冬はやっぱり鍋に限る！さてさて冬場の久渡寺登山だが、いくら近所の山とはいえ冬用の登山装備と知識がないと遭難の恐れもある。自然が相手である以上、リスクは0にはなり得ないが、安全に最大限に配慮しながら全力で津軽の冬を楽しみましょう。



作業療法士：小田桐 早紀

亥年を元気に前進 ～津軽亥年一代様 弘前八幡宮参拝～

2019年を迎え、早1ヶ月が経とうとしております。亥年生まれの娘を持つ私は、娘とともに新年のご挨拶のためにゆっくりと弘前八幡宮をお参りしたいと思っており、1月半ばに参拝して参りました。この日はあいにくの雪でしたが、参拝した時には青空が顔をのぞかせ、今年一年が明るい年となるという予感がし、とても元気になりました。

十二支の中でも12番目の「亥」は、とざすという意味があり、草木の生命力が種の中に閉じ込められ、エネルギーを蓄えている状態ともいわれております。私たち医療者は日々学びを深め、エネルギーを蓄え、患者さんに最良の医療を提供するために前進していかなければならないということを改めて考える（祈る）機会となりました。

弘前八幡宮は戌と亥の一代様ですが、皆さんもその年の干支の神社やご自分の干支の神社を巡ってみてはいかがでしょうか・・・。



御朱印もいただきました。小袋もいただき、中にはお米が入っており、後日美味しくいただきました。これで今年も無病息災！

医療安全管理師長：白取 彩香

大好き♡雪遊び

「せんせい、雪遊びしようよ～」と天候など気にせず、外で雪遊びをしたい子どもたち。お日様が出て、晴れ空になると、子どもたちは大喜びで、帽子、手袋、スキーウェア、長靴と大急ぎで雪遊びの準備を始めます。外に出た途端、「ワー！」「キャー☆」と大きな声が一面、銀世界の園庭に響きわたる中、雪の上に寝ころんでフカフカの雪の

感触を楽しんだり、大きな雪だるまを作ったり、友だちと夢中になって雪合戦をしたりしています。小さい園児は慣れない長靴、雪道に苦戦しながらも、滑らない様にゆっくり散歩をしたり、保育士に引っ張ってもらいながらソリに乗ったりと、冬ならではの遊びを楽しんでいます。子どもたちは雪がたくさん降ることを待ちわびています。

風の子保育園 園長代理：木村 美千代



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2019年2月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	横田貴志	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子
		下山垂矢子	田中佳人	田中佳人	-	田中佳人
		-	石岡佳子	-	-	-
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	山口公平	松木明彦	山口公平	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	安田耕平	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	梅津英典	佐藤啓	梅津英典	佐藤啓
		遅野井香純	-	-	-	遅野井香純
外科		柴田滋	山名大輔	柴田滋	山名大輔	三上勝也
		-	堤伸二	堤伸二	-	-
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	佐々木規博	秋元博之	秋元博之	藤田有紀 受付10時まで	秋元博之
		藤田有紀	藤田有紀	佐々木規博		佐々木規博
		猿賀達郎	市川奈菜	猿賀達郎		佐々木静
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	丹藤伴江	丹藤伴江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	小玉都萌	松村由紀子		追切裕江
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	休診	西澤尚徳	西澤尚徳
		三橋友里	清水目奈美	-	-	-
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	休診	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。
 ※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

手術痕 すっかり消えて 再出発

(チロル)

退院と 君待つまでの なごり雪

(イシザワ)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>